

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立戸田翔陽高等学校	Bグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	生徒の個性や能力を学校全体で把握し、将来の社会で他者と協働できる資質・能力をもった「人財」の育成を目指した教育システムが採用されている。学校の現状や課題などを踏まえて概ね適切に設定されているが、学校の特色や強みを生かした目指す学校像になると更に良い。
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	学校の取り組むべき方向が四つの柱として設定されている。生徒・学校関係者や教職員などの意見や要望等を反映した中期的な目標として概ね適切なものである。目標の一部が抽象的なものとなっているので、更に検討・整理することが望まれる。
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校自己評価システムを運営する組織が明確に位置付けられている。各組織の会議運営や情報共有の工夫がなされ、分掌、年次等が連携しながら目標達成を目指す体制が整えられ、適切な方策が実施されている。
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	評価指標が教職員間で達成イメージを共有できるものとして工夫されている。学校全体のシートと分掌・年次等のシートの連鎖をより明確にして、組織として計画的に方策を実施することが望まれる。
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長は学校の現状を踏まえた明確な学校経営の方針を持ち、取り組んでいる。校長が的確なリーダーシップを発揮し、「翔陽職員室（校長通信）」を発行するなど、教職員の共通理解を深め、学校全体で組織的な取組を展開している。
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	学校関係者の意見などを基に次年度の目標・方策の設定に生かしている。課題や次年度への改善策を明らかにするために必要なデータとなるよう各種アンケートの工夫を進め、更にその結果等を分析して、次年度のより具体的な取組につなげるようにしていただきたい。
特記事項		